

■採点基準（問題1と2に共通する基準）

- ・ 問題文を正しく読解できているか。
- ・ 自分の考えや意見をはっきり示しているか。
- ・ 文章構成が滞りなく、スムーズであるか。
- ・ 誤字脱字がなく、字数制限が守られているか。
- ・ 考えを述べるための根拠が挙げられているか。
- ・ 根拠から論理的に結論が導かれているか。
- ・ 内容に矛盾点がないか。

■問題1

出題意図など：

- ・ 食品やそれを取り巻く状況について知識と関心を持っているかを問う。
- ・ 社会的に関心の高い食と健康とそれに関連する日本社会の問題についての知識や関心を問う。
- ・ 問題発見能力、発想力および文章表現力を問う。

設問(1)の事例やキーワード等：

<フードファディズムの例>

- ・ 過度な糖質制限
- ・ 精製された（白い）塩や砂糖は体に悪い
- ・ 極端な菜食主義
- ・ 健康に良いとされたもの：納豆、バナナ、ココア、寒天、白いんげん（加熱不足による食中毒が発生）、にがり、プロテイン摂取
- ・ 健康に悪いとされたもの：牛乳（飲みすぎでかえって骨粗鬆症になる→生産量が低下し回復していない）、インスタントラーメン、トランス脂肪酸（含有量の多少を問わず議論された）、食品添加物など

<社会現象の例>

- ・ 体に良いと言われる食品ばかりを食べ、かえって健康を害する人が増える。
- ・ 食品の効能を信じすぎて、適切な医療を受けずに症状を悪化させる人が増える。
- ・ 体に悪いと信じる食品を食べないことで栄養不良や健康被害を引き起こす人が増える。
- ・ 一時的にある商品が流行することで在庫がなくなり、本当に必要な人に行き渡らなくなる。
- ・ 一時期のはやりの後の急速な消費低迷により企業の業績が悪化する。
- ・ 歴史のある食品が売れなくなり、食品産業の一部が衰退する。
- ・ 一時期の消費拡大とその後の消費低迷により食品ロスが生じやすくなる、など

解答例

事例として、過度な糖質制限での減量や白砂糖は体に悪いなどの情報が広がることが挙げられる。また、ココアや寒天など健康に良いとされる食材が繰り返し流行している。社会現象面では、誤った知識による健康被害や特定の食材ばかりを食べることによる栄養不足など、健康な生活がおびやかされることや、一時の流行による生産過剰と原材料の高騰、その後の在庫過剰問題など、食品の健全な生産・流通体制が乱れることが予想される。

設問(2)

①何を行うか、②どこで行うか、を組み合わせて説明していること。

①の例

- ・ 年齢に応じた、家庭で食事をつくることへの参加。例えば、子供のうちから、配膳、片付けの手伝いをするなどの、しつけ
- ・ 男だから台所に入ってはいけないなど、性別による排除を行わないこと。
- ・ マスコミやCMなどで、誇張した食品の効能を謳うものは規制すること。
- ・ 機能性の過大な誇張はやめ、基本的な栄養素に関する教育を充実させること。
- ・ 男女とも長時間労働を当たり前にしない社会制度を構築することなど

②の例

- ・ 企業や組織での社員教育での継続的な取り組み・家庭での教育・教育機関での啓蒙など

解答例

以下の1～4の内容について、任意の組み合わせで400字以内

1. 家庭においては、年齢に応じた食事の場への参加を促すことが必要である。例えば、配膳、片付けの手伝いをするなどのしつけを小学校低学年頃から始めて、徐々に料理を作ることに参加させるなどである。この時に性別による役割の免除や押しつけを行わないようにすることも大事である。
2. 学校教育では、食品の機能性の過大な誇張を行うより、基本的な栄養素に関する教育を充実させることが必要である。また、社会人に対しても食生活に関する啓蒙は必要であるため、学校教育に引き続き企業等での社員教育としての食育への取り組みが継続して行われることが理想である。また、さまざまな情報を批判的に読み解き、活用できるメディアリテラシーを育成することも重要である。
3. 社会全体として、男女とも長時間労働を当たり前にしない社会制度を構築するとともに、職場等での実態が伴うようにする努力が必要である。
4. 公的な機関の役割として、マスコミやCMなどで、誇張した食品の効能をアピールすることについて、規制を厳しくすることが求められるかもしれない。

■問題 2

設問(1)

出題意図など：

- ・ 問題文について要点を抜粋し適切に要約できる能力があるかを問う。
- ・ 以下のキーワード（または同意語）などを適切に用いて説明できているか。
世界人口，穀物供給力，環境変動，食糧安全保障，農業従事者，高齢化，科学的方法，科学的データ，生産管理，省力的，定量的

解答例

食糧生産における近年の問題として、世界人口の増加、穀物供給力の減少、環境変動による農業災害増大や栽培管理方法の変更などがある。この様な状況において、主要作物の生産実態に関する空間情報は食糧安全保障上非常に重要である。地上での統計調査体制の整備されていない国や地域では、衛星リモートセンシングは唯一の科学的方法である。国内では農業従事者の高齢化や減少の問題が存在し、経営規模拡大が進むなか、広域・多数のほ場の科学的データに基づいた効率的な生産管理が強く望まれている。この生産管理に必要な診断情報を、省力的・定量的に収集する手段として空間情報技術が期待されている。

設問(2)

出題意図など：

- ・ わが国の農業に関しての知識と感心を問う。
- ・ 以下のキーワード（または同意語）などを適切に用いて具体的に説明できているか。
環境負荷，農薬，肥料，土壌，地下水汚染，病虫害，情報付きほ場地図，リモートセンシング，GIS，GPS

解答例

環境を保全しながら農業を行うためには農業活動で生じる環境負荷を低減する必要がある。従来の農業活動における環境負荷として、肥料や農薬、家畜糞尿などによる土壌汚染や地下水汚染、水資源の非効率な利用などがある。空間情報技術を利用した環境負荷低減の一例として、位置情報と生育状況等が連結した情報付きほ場地図の利用がある。情報付きほ場地図の作成には GIS や GPS のデータが利用でき、作物生育状況や病虫害状況把握にはドローンを用いたリモートセンシングが利用可能である。空間情報技術を用いて作成した情報付きほ場地図を活用し、肥料や農薬の使用量を適正化することで環境を保全しながら農業を行える。